

# 令和3年度 小平市立花小金井小学校 学校評価報告書

## 学校教育目標

人権尊重の精神を基盤に、人間性豊かでたくましく生きる児童を育成する。

## 目指す学校像(ビジョン)

【目指す学校像】 楽しくて明日を心待ちにする学校

【目指す児童・生徒像】 ①主体的に問題解決に取り組み、自分の考えを表現できる児童 ②健康でたくましい心身をもち、目標に向かって粘り強く努力する児童 ③自他を尊重し、人の喜ぶ姿を見て喜べる児童

【目指す教員像】 ①児童を愛し、児童の良さや個性を認め、伸ばす教職員 ②子どもたちに笑顔と明るい声で接する教職員 ③より良い授業を目指し研鑽を積み、楽しくてわかりやすく力を付ける授業を実践する教職員 ④法を遵守し、服務規律を守り信頼される教職員 ⑤得意なことを出し合って苦手なことを補い合う教職員 ⑥価値観を共有し、一丸となって取り組む教職員

## 前年度までの学校経営上の成果と課題

- ・日常的に読書に親しむ児童が増えている。引き続き、読書の習慣化を目指す。
- ・教職員間での情報共有の徹底と教育課題に対する組織としての対応に不十分な面があった。積極的な情報共有と組織的な取組みができる仕組みを作る必要がある。

	具体的方策	第1回評価		成果・課題・対策	第2回評価		学校関係者評価	成果・課題・次年度以降の対策
		取組指標	成果指標		取組指標	成果指標		
学力向上	○音読、計算、漢字等、基礎的な学習の習熟を図る。 ○学習規律を徹底させる。	4	4	・音読の宿題が全校統一になり、音読の習慣が身に付いている。 ・夏季休業中の補習教室は、コロナ禍により予定が直前まで出ない状況があった。煩雑さを避けるため今後も日程は統一するが、必要に応じて学年で対応する。	4	4	・学校の規律を守る事が難しい児童もいる。児童それぞれに特性があるので、保護者と学校がともに児童理解に努める必要がある。 ・学習規律の徹底は学習の基本。その大切さを児童に理解させた。	・基礎的な学習内容の定着に向けて、授業、補習、家庭学習を連携させた取り組みを継続する。 ・教室移動の際、児童がばらばらに大声を出しながら動いている場面がある。授業時間内は教師が先導し、静かに並ばせて移動させ、規律への意識づけを継続する。
	○読書マラソンに取り組む。 ○ねらいの明確な自力解決の時間の設定された授業を実施する。	4	3	・読書の習慣が身に付いている。旬間中全てを朝読書にせず、週1日はその他の朝学習にする。 ・校内研究で他の教員の授業を参観し、様々な指導法を共有することができた。今後も積極的に授業公開をする。 ・授業公開のアナウンスを周知させる。	3	3	・自力解決は大切な力。タイマーを効果的に使い、その時間を確保したい。	・校内研究を継続し、ねらいが明確な授業を実施していく。 ・児童の自力解決を大切に授業を継続し、自力解決の時間を確保した授業を実施する。 ・自力解決については、単元や授業内容によっても変わってくるので、計画的かつ弾力的に扱う。
健全育成	○全教員で児童の情報を共有する。 ○毎月チェックリストで児童の様子を把握し、いじめ防止に関わる授業や学級指導を、年間3回以上実施する。	4	4	・校内委員会で検討し、生活指導学会で職員の共通理解を図ることができた。 ・共通理解に不十分さが出ないよう、周知徹底が必要である。 ・急を要する案件が生じた場合、迅速に対応する。 ・児童対応に時間をあてられるよう、業務の精選を行う。	3	3	・いじめだけでなく、児童の関係づくりが難しいのかと思う。 ・教職員間の情報共有を進める為、情報の一元化を進めるべき。 ・保護者と児童の捉え方が逆になっている項目について、分析が必要である。 ・クラブ活動は異学年交流の場として大切。学習支援ボランティアを活用するのも良い。	・臨時の校内委員会が開催されることが多かった。通常の校内委員会は特別支援に関する内容とし、それ以外の案件は、参加者を管理職、該当学年主任・教諭とし、臨時に開く。 ・児童対応の修正及び変更があった場合、担任の動きと合わせて他教員の対応の仕方も伝える必要があった。周知を徹底する。
	○なかよし班・クラブ活動など異学年交流の場の充実を図る。 ○話をよく聞き、認め励ます指導を行う。	2	4	・コロナ禍にあり、本格的な活動を1学期は見送った。しかし、上学年のリーダー性育成を第一に考え、形を工夫して実施する必要がある。 ・なかよし班について、中休みに6年生数名が各学級に室内遊びを教えに行き、リーダー性育成の機会を増やす。	4	4		・なかよし班遊びや展覧会のペア鑑賞等、様々な交流が実施できた。児童同士の良い交流の姿が見られた。 ・コロナ禍でクラブ活動の延期や中止が多かった。次年度はクラブ活動の時間を延ばし、活動時間を確保できるようにする。クラブ活動がある日は下校時刻が遅くならないようにする。
体力向上	○外遊びを推奨する。 ○好き嫌いなく食べる指導を行う。	2	3	・校庭での密を避けることや熱中症を避ける理由で、必ずしも「全員外へ」とはできない状況があった。 ・好き嫌いなく食べる指導と給食委員会の発表等の啓発を継続した。頑張っ食べようとする児童が増えた。今後も継続して指導する。	1	3	・外遊びは大切。児童の見守りに学校支援ボランティアの活用を。 ・残菜の傾向から好き嫌いを把握し、調理の工夫で、児童に合った給食に。	・コロナ禍でもあり、外遊びを基本としつつ、中で過ごす場合は教員が見守りつつ、読書など静かにできることも可とする。 ・給食委員会がリクエスト献立を実施した。児童の食べる意欲を高めることに繋がった。食べる意欲を今後も喚起し、嫌いなものも一口は食べるよう、指導を継続する。
	○コオーディネーショントレーニングを体育授業に取り入れる。 ○毎日パワーアップカードに取り組む。	1	4	・職員への研修を行い、多くの児童が取り組むことができた。 ・今後どのように全校として取り組んでいくかの具体的なビジョンを8月の職員会議で決定する。 ・取組の成果は体力テストの結果で検証する。 ・短縄週間など、学校行事と絡めて取り組めるようにする。	1	3	・コオーディネーショントレーニングの定着は良い。今後の進め方に期待。 ・「パワーアップカード」は理解にギャップが。家庭への周知で協力体制を。	・パワーアップ朝会でコオーディネーショントレーニングに取り組んだ。運動の定着が見られた。今後も継続する。効果について、次年度の体力テストの結果で検証する。 ・パワーアップカードについては、コロナ禍ではあるが運動する機会は増えているため、次年度は時期を限定して取り組む。
保護者・地域との連携	○保護者の会委員会、学校だより、学級通信、ホームページ等で情報発信する。	4	3	・学校だより、学級通信、ホームページ、スクールメールを活用し、積極的な情報発信ができた。 ・コロナ禍にあり、行事の変更が多発した。変更にくく変更もあり、その際の情報発信と共有がスムーズにできないケースがあった。行事等の変更について、変更の変遷を全員が把握できる環境が必要。職員は掲示板で情報を共有し、児童や保護者にはスクールメールとホームページを活用して、情報伝達に齟齬が起きないようにする。	2	4	・学校だよりの学年の枠が集金のお知らせ中心になっていて残念。教員の負担にならないよう、HPの活用や輪番での学年だより、学級通信の発行を。 ・学年により評価に偏りがある。学校全体の全教師での対応が必要。 ・口頭の所見は、保護者への伝え方に齟齬が生じないように、通知表の記載以上の注意を。	・保護者の理解や家庭との連携を得るという点で、1学期の通知表の所見欄をなくし、個人面談に振り替える。個人面談は1学期の夏季休業中に実施する。個人面談では、1学期の児童の頑張りや課題等も含め、児童の様子を家庭に伝える機会とする。
業務改善・働き方改革	○毎月、勤務の合計時数を教職員に配布し、意識化を図る。過当たりの在校時間が60時間を超えないようにする。	1	1	・意識はしているが、効果が表れるまでには至っていない。SSの活用で業務を振り分け、在校時間の削減につなげる必要がある。 ・来年度に向けて、各部会で精選できる業務、削減できる業務を検討する。	1	1	・先生方の評価が低いのに驚く。今までの業務に加え、コロナ禍で通常と違う対応を多く求められる中、改善が難しかったと理解するが、教員自身の心と体の為にも、ぜひ意識改革を図っていただきたい。	・業務が重ならないよう、成績提出の日程を調整する。 ・児童の出欠席や成績処理等、管理を統一して行えるようにすると、業務改善に大きくつながる。 ・ICTを活用し、ペーパーレス化を進める。
	○会議の精査や学校行事の精選、ライフワークバランスなどについて、自己申告書に具体的な目標を示して取り組む。	1	1	・計画的な業務の遂行が難しい状況があった。判断を早くし、会議は時間内で終わらせ、業務の遂行をスムーズに進められる環境づくりが必要である。 ・他校の業務の進め方について情報収集し、本校の業務改善に取り入れる。	1	1	・児童の下校時間を一定にするのは良い。保護者も安心できる。	・掃除がある日は児童の下校時刻も遅くなり、業務を行う時間も圧迫される。次年度も今年度のままの時間で運営するが、学期末は2週間程度をB時程にし、成績処理の時間を確保する。臨時的に掃除が必要になった場合は、その日の昼休み無しにし、掃除を行う。